

各二次医療圏における  
研修医の変化について  
マッチング導入直後と最近の比較

広島国際大学医療経営学部

江原 朗

# 目的

- 平成16年の新臨床研修制度導入以降、医療現場から医師がいなくなったと報じられる。
- 病院を主体とする入院医療は、二次医療圏においてなされているため、二次医療圏における研修医の増減を検討する。

# 方法

- 各研修病院における平成15年から23年の臨床研修医のマッチ者数は、医師臨床研修マッチング協議会より引用した。
- 各二次医療圏（平成22年の圏域）における平成15～17年の平均値と平成21～23年の平均値とを比較した。

# 結果

- 全国349の二次医療圏のうち、マッチ者数が
  - 増加：155地区
  - 不変：79地区
  - 減少：115地区

# マッチ者の規模別二次医療圏数 (圏域は平成22年12月現在に換算)

マッチ者数 (3年間の平均)	二次医療圏数		
	平成15~17年	平成21~23年	変化
なし	84	76	-8
2未満	55	54	-1
5未満	46	38	-8
7未満	13	18	5
10未満	22	25	3
20未満	33	42	9
30未満	18	17	-1
50未満	29	27	-2
70未満	13	20	7
100未満	18	16	-2
200未満	11	11	0
200以上	7	5	-2
合計	349	349	

# 10人以上増加：20地区

- 上位5位

- 横浜北部(神奈川)29.3人

- 区中央部(東京)24.3人

- さいたま(埼玉)21.7人

- 東葛南部(千葉)21.7人

- 阪神南(兵庫)18.7人

- 福井・坂井(福井)18.7人

二次医療圏	都道府県	マッチ者数(年平均)		差
		平成15～17年	平成21～23年	
1401 横浜北部	神奈川県	46.7	76.0	29.3
1301 区中央部	東京都	474.3	498.7	24.3
1104 さいたま	埼玉県	25.7	47.3	21.7
1202 東葛南部	千葉県	59.3	81.0	21.7
2802 阪神南	兵庫県	83.0	101.7	18.7
1801 福井・坂井	福井県	34.7	53.3	18.7
1702 石川中央	石川県	89.0	106.3	17.3
3001 和歌山	和歌山県	56.7	73.7	17.0
1303 区西南部	東京都	87.3	104.0	16.7
0601 村山	山形県	41.3	57.7	16.3
2904 中和	奈良県	37.7	52.7	15.0
2205 静岡	静岡県	26.0	40.3	14.3
4403 中部	大分県	42.3	56.3	14.0
3301 県南東部	岡山県	65.3	78.3	13.0
3703 高松	香川県	34.0	46.7	12.7
2402 中勢伊賀	三重県	10.7	23.0	12.3
1305 区西北部	東京都	163.7	175.3	11.7
3506 下関	山口県	6.7	18.3	11.7
3401 広島	広島県	80.7	91.3	10.7
2009 長野	長野県	16.3	26.7	10.3

# 10人以上減少:22地区

- 下位5位

- 札幌(北海道) -63.3人

- 京都・乙訓(京都) -44.7人

- 久留米(福岡) -40.3人

- 鹿児島(鹿児島) -28.0人

- 千葉(千葉) -24.7人



二次医療圏	都道府県	マッチ者数(年平均)		差
		平成15～17年	平成21～23年	
0104 札幌	北海道	223.3	160.0	-63.3
2604 京都・乙訓	京都	278.0	233.3	-44.7
4006 久留米	福岡	122.0	81.7	-40.3
4601 鹿児島	鹿児島	104.7	76.7	-28.0
1201 千葉	千葉	87.7	63.0	-24.7
1304 区西部	東京	273.7	253.0	-20.7
2208 西部	静岡	83.0	62.3	-20.7
0904 県南	栃木	108.3	87.7	-20.7
4201 長崎	長崎	77.0	58.3	-18.7
4012 北九州	福岡	87.3	69.3	-18.0
2304 尾張東部	愛知	102.3	84.7	-17.7
1001 前橋	群馬	70.7	53.3	-17.3
1408 湘南西部	神奈川	73.7	56.7	-17.0
4001 福岡・糸島	福岡	254.3	240.0	-14.3
3505 宇部・小野田	山口	51.0	37.7	-13.3
2705 南河内	大阪	58.7	46.7	-12.0
1410 相模原	神奈川	89.0	77.3	-11.7
1106 川越比企	埼玉	71.3	60.0	-11.3
1404 川崎北部	神奈川	84.3	73.0	-11.3
2301 名古屋	愛知	207.3	197.0	-10.3
4101 中部	佐賀	55.0	44.7	-10.3
0505 由利本荘・にかほ	秋田	14.3	4.3	-10.0

# 10名以上増加(灰色)・減少(黒)した 二次医療圏を有する都道府県

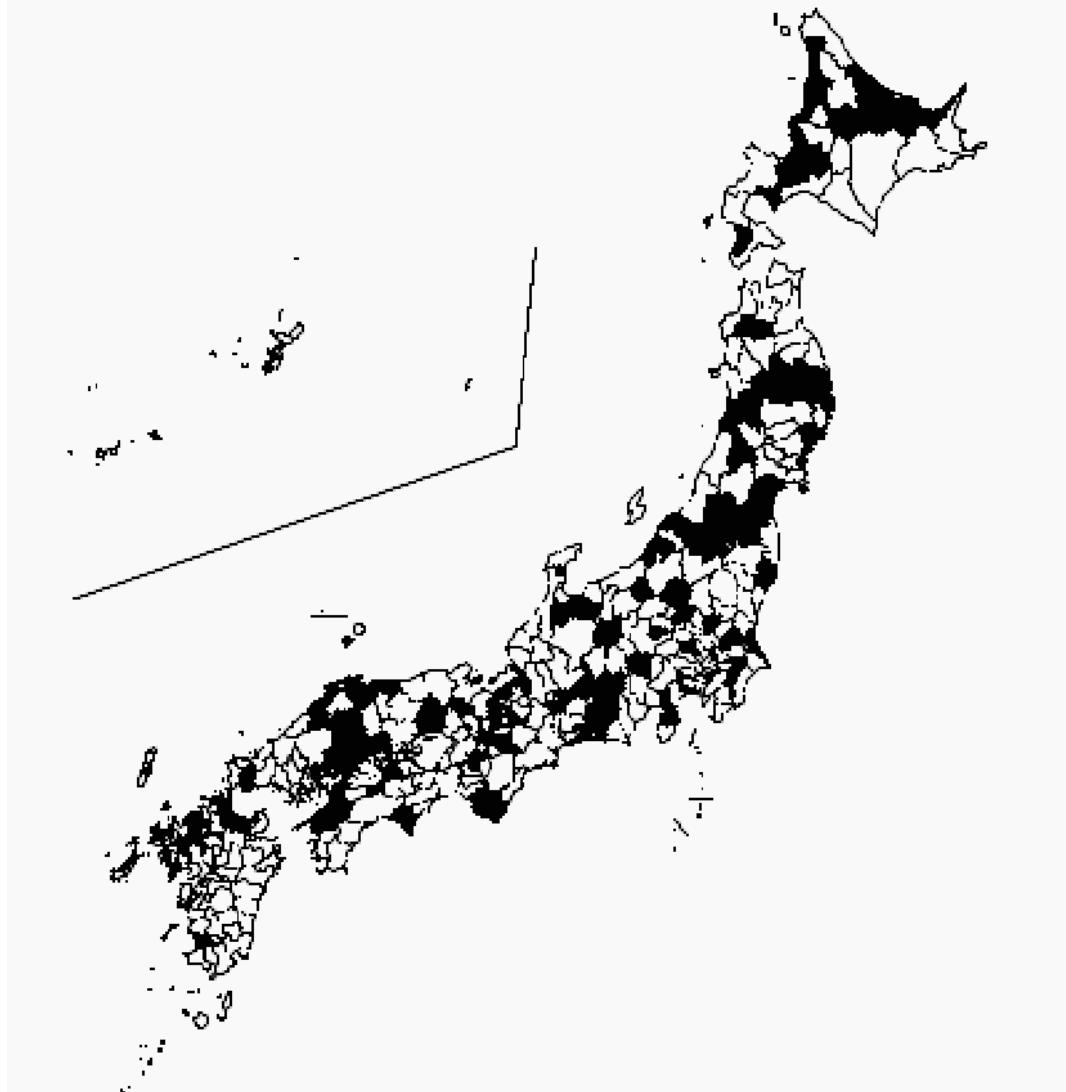
国土地理院承認 平13総複 第367号



国土地理院承認 平13総複 第367号



# マッチ者が減少した二次医療圏(黒)



# 二次医療圏ごとの病院従事医師数と マッチ者数との相関

マッチ者数 (3年間の平均)	病院従事 医師数	相関係数
平成15～17年	平成16年	0.955
平成21～23年	平成22年	0.956

二次医療圏の圏域は平成22年に変換して解析。

(平成15～17年の平均マッチ者数)

=0.067\* (平成16年病院従事医師数) -8.555

(平成21～23年の平均マッチ者数)

=0.056\* (平成22年病院従事医師数) -6.455

# 結論

- 全国349の二次医療圏のうち、マッチ者数が、155地区で増加、79地区で不変、115地区で減少（平成15～17年vs平成21～23年）
- 関東、近畿では、研修医が10人以上増加した地区と10人以上減少した地区が混在していた。
- 研修医のマッチ者数と病院従事医師数との間に強い相関関係
- 指導医が勤務を続けられる環境整備が必要